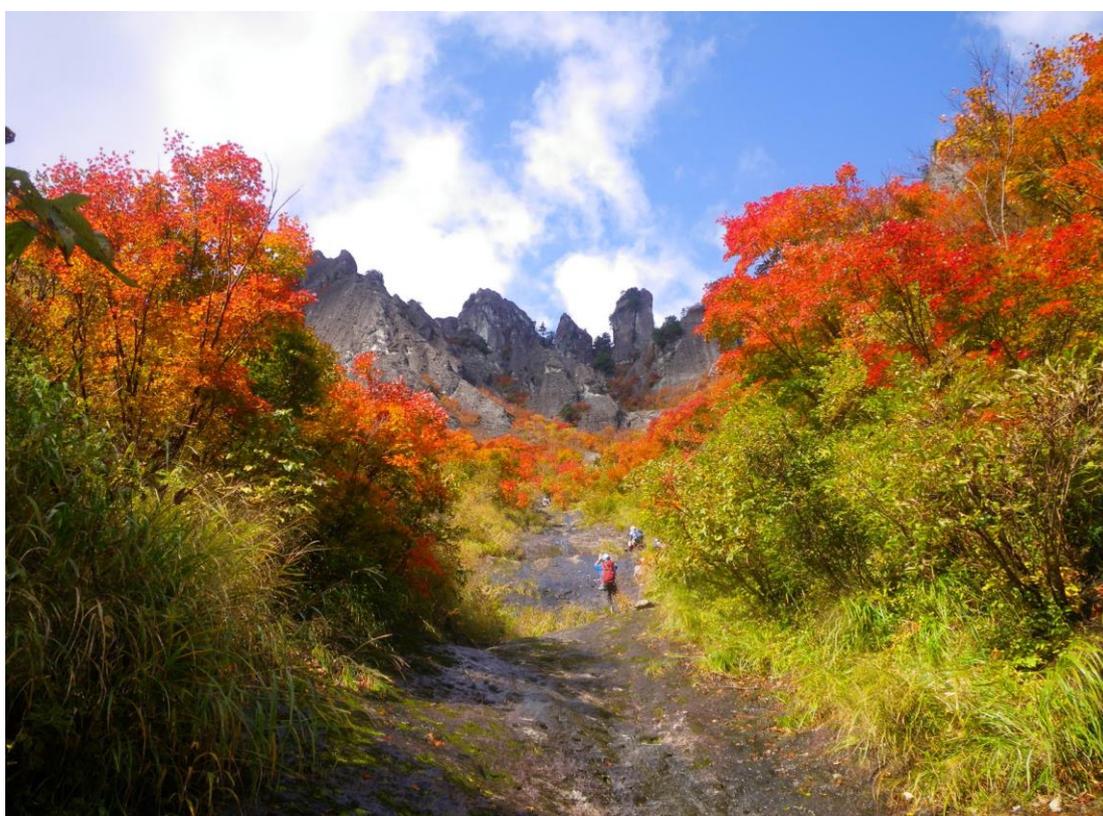


## 御前ヶ遊窟 山行報告書

先月の沢山行の際、Uさんが所属されていた福島登高会での沢話になり『ごぜんがゆうくつ』が面白かったと言う、調べてみると非常に興味深い。沢を登るがハイキング？微妙なところ。ハイグレードハイキングという本に載っているらしいので、カテゴリー的にはハイキングになるのか・・・

後日、11月上旬に福島登高会で『御前ヶ遊窟』に行く計画があるので合わせて私共も行きましょうか。と話が進み、その時居合わせたメンバーで実現する事となった。



### シジミ沢の大スラブと岩塔

【日程】前夜発 10月31日(土)～行動日 11月1日(日)

【メンバー】CL 薄井 SL 高梨 渡邊3 大塚 小原(記)

【山域】越後山脈 御前ヶ遊窟

【行程】登山口 8:00→鍬ノ沢渡渉点 8:10→登山道分岐点(タツミ沢)8:35→シジミ沢出合  
10:00～10:10→御前ヶ遊窟 11:15→(休憩)→遊窟岩塔上 11:50→御前ヶ遊窟 12:20→ソウ  
ケエ新道経由～登山口 15:15

## 10月31日(土) ハロウィン

市川 18:50 発、東北道より磐越道に入ると雨が降り出す、回復を祈りつつ津川 IC を降りるが雨足は強まってくる。雨の当たらない仮眠場所探すが無い。

暗闇の中走っていると大きな P の文字とトイレマークが浮かび上がる(←国道 49 号 191.7 ㌾地点)屋根は無いものの悪くない、ちょうど雨もあがった。

ササッとテントを設営し、魔除けならぬ雨よけも兼ねてハロウィンパーティー(?)とする。呑んだもの達が立派な赤カボチャになった頃お開きとし、午前 2 時に就寝した。

## 11月1日(日) 曇り後晴れ

外は雲も低く悩ましい どんより 5:50 に目を覚ます。

7:00 津川 IC 近くのセブンイレブンにて福島登高会の方々と合流し、途中わらび園にある御前ヶ遊窟案内図の看板をカメラに収め、登山口近くの駐車スペースに向かう。

既に車が数台あり、その少し奥に駐車。

身支度を整え、自己紹介をしていると危うそうな雲がきれ始め、光が差してくる。

昨夜の雨もあったので、スラブ帯が少しでも乾いていてくれると良いのだが。

各会の登山届(下山路は各会別々)をポストに入れ、ちば山 CL を先頭に(福島登高会 8 名&宮城の山クラブ KAMURO 1 名、ちば山 5 名)14 名でゾロゾロと出発。

足元は沢靴、長靴、運動靴とそれぞれ、シジミ沢までは道がぐちゃぐちゃらしく、沢靴をチョイスした。まもなく鍬ノ沢の渡渉点となり右岸沿の道に進む。渡渉から 25 分で登山道分岐点(タツミ沢入口)帰りはタツミ沢側から下ってくる。(ここにも遊窟 MAP が設置してある)

分岐点先からは道が細くなり濡れた落ち葉の下は粘土質の泥や苔岩で、切れ落ちた急斜面トラバースもある、泥がめり込んだフェルト底との相性は最悪、滑る×滑る。

気の抜けない道に嫌気がさした頃、シジミ沢合出に到着。ここで沢靴からアプローチシューズに履き替え、いよいよシジミ沢へと入る。



わらび園に設置の MAP



登山道分岐点の MAP



各会登山届をポストに入れる



鍬ノ沢渡渉



登山道分岐点 MAP を確認



分岐点先からの道は狭く滑る



右に岩塔が現れる



鍬ノ沢魚止の滝(シジミ沢出合)

SLにトップを変わり、出会いからは大きなゴーロ帯を登る。急なところにはトラロープもある。昨日の雨のせい、チョロチョロと水の流れもあった。10分程で一気に視界が開け、大スラブと岩塔を左右から覆いつくす見事な紅葉、荘厳な風景に圧倒される。スラブ帯も下部はしっかり濡れており、靴によっては、結構滑る物もあるようだ。ただ、こちらにもトラロープや鎖が、欲しいなと思う箇所には大抵あり助かる。

徐々に水気が無くなり、乾いた岩肌が変わってくると登りやすくなるのだが、高度が増し緊張感も高まる。岩塔がだいぶ近づいてきた頃、右方向の灌木帯に入るようテープがちらほら見え始めた。色づいた草木につかまりながら登れ、心も和む。さらに左にトラバースしていくと、「ソウケエ新道分岐」と岩にペンキで大きく書かれた場所に差し当たる、そこから間もなく御前ヶ遊窟に到着する。



スラブ下部



テープがあちこちにある



岩塔が近くなってきた



振り返ると傾斜が怖い



テープに沿って右に入る



水が無くなっても楽しい♪

御前ヶ遊窟で軽く休憩した後、ザックデポし遊窟岩塔の頂を目指す。左に登り進めると、すでに先行パーティーがザイルを出し尾根に向かって取り付いていた。さて我々は・・・と SL がさらに左斜め上に進んでいく。ここはザイルを出すものと思っていたので、恐る恐るついていくと、あれ？あっけなく尾根に出てしまった。狭い岩塔の頂からは飯豊連峰が見え雪化粧が始まっていた。山もすっかり冬支度か、沢はもう終わり？とおセンチな気分になりつつ、三方向が切れ落ちた頂上で落ちないように記念撮影をし、遊窟に戻った。



遊窟から左斜め上方向で尾根に出る



御前ヶ遊窟頂上

下山は、まずソウケエ新道を登り上げる。急な場所は鎖が設置されているが、ここ鎖無いの？といった場所も。下りには鎖場が 5 箇所、下山道は急で岩もツルツル滑る。4/1 程過ぎた頃、派手に転び突起した木の根に尾骨を打ち付けてしまいしばし悶絶。足を大きく上げ下げすると痛む、かなりペースを落としてもらいノソノソ下る。急登を下りきったところで、タツミ沢と鍬ノ沢を渡渉、緩やかな道となりようやく普通のペースで歩けるようになった。無事登山口までたどり着き安堵。お騒がせしました。日帰り温泉は七福荘(500 円) 津川 IC 近辺はお食事処がなく高速 SA で食事を済ませ、帰路に着いた。



ソウケエ新道の上り



長い鎖場

『御前ヶ遊窟』名前に類して神秘溢れるところでした。楽しかった♪